

毎年3万人もの自殺者を出す先進国日本。その日本は今、どのような社会なのでしょう？
心身症、うつ状態、精神的不安定状態、学校や職場への不適応の人たちの増加、
独りの気楽さとさみしさを同時に抱え、他者や集団に合わせて生きる人々。
私たちは、「真の信頼関係」を見失ってしまったのかもしれない。
あなたは、将来を担う子どもたちに、何を残していきますか？

平成 22 年度日本トランスパーソナル学会東北支部勉強会
「人間性心理学 から トランスパーソナルへ (全6回)」

第1回 H.22年5月30日(日) 13時～16時半 仙台市市民活動サポートセンター

※ 参加費・内容・全6回の日程等は下記をご覧ください。

内容 : 人間性心理学の成り立ちや代表的な人物を取り上げその思想や人間観に触れていきます。
さらに、トランスパーソナルにつながる背景の世界や社会情勢を振り返り、現代社会の問題点について考え、今の時代に必要とされているものは何であるかについて考察します。

進め方 : 前回実施した「やさしい読書会」と同様、参加者全員で資料の読み合わせをしながら、「自分の人生」と絡めた個々の考えや思いを表現していきます。「自分らしく生きること」と「他者、世界の幸せ」は両立するのでしょうか？ それぞれの人生において「発達・成長とは何か」を考えるための良き機会となりますよう、みなさまの積極的、主体的なご参加をお待ちしております。

進行は、長年に亘り人格変容(成長)のための援助的仕事をしてきた産業・教育カウンセラーと、精神保健福祉士の資格を持つ日本トランスパーソナル学会東北支部役員が複数でリードします。

全日程 : 第1回 H.22年5月30日(日)、第2回 8月1日(日)、第3回 9月26日(日)
第4回 11月21日(日)、第5回 H.23年1月23日(日)、第6回 3月27日(日)

時間 : 午後1時～4時30分 場所は、仙台市市民活動サポートセンターを予定しています

参加費 : 全6回参加 8,000円 各回参加 1,500円(当日支払可) 定員は10名まで

Q:「トランスパーソナル」って何？

A:「トランスパーソナル」の「トランス」は、「trans」であり、「越えて」「超越して」「…の向こう側の」という意味。間違われやすい「trance」は、「夢うつ」「ぼう然自失」「忘我(の境)」でありその違いは明白。つまり「トランスパーソナル」とは、「個(自我)を超える」という意味になり、人間が、個人的な欲求だけに囚われず、他者や社会とつながり、共に生きる喜びを取り戻せるような生き方を模索します。

Q:「人間性心理学」について

A:行動主義、精神分析の次に発展したもので、人間を“人間”として特徴づけ、意識や体験の特質を研究し、自由意志や生きる意味、個人的成長や自己実現を大切にします。実存哲学、現象哲学にルーツを持ち、東洋思想や瞑想やボディワークや体験的学習、自助グループなどを世界各地で発展させてきました。「人は自ら成長する」という人間観に基づき、「病理」は成長、自己実現への停滞、障害の形であると考えます。

★ 参加申し込みはメール (nosasaki2002@yahoo.co.jp)、または FAX (022-243-0281) にて、
「日本トランスパーソナル学会 東北支部事務局 佐々木」宛てにお願いします。

2010.2.21「やさしい読書会⑥」参加者感想

- ・ 人間の成長についての段階について、身近な例を用いて説明していただけて分かりやすかったです。意識のスペクトルの図を照らし合わせて段階を追ってみていくことが新鮮でした。
本を読んで分かりづらいことも、説明や他の方の意見を通じて深めていくことができ、楽しい読書会でした。ありがとうございました。
- ・ グループの中で何が起きているのか、どう動いているのかが分からない中で、毎回毎回、新鮮な体験ができました。
一人では一人よがりになってしまう事も、ゆっくり丁寧に読み進める事で、広がりと深さを持って感じる事ができました。彼の成長がウィルバーの意識のスペクトルと重なりとても興味深く読めました。
又、セラピストが最後までクライアントに自分に正直によりそう真摯な姿勢に学ばせて頂きました。
- ・ 「トランスパーソナル」は奥深く、大変興味深く参加させて頂けてありがとうございました。自分でもいろいろ読んでみたいと思います。これからの自分の方向の中に活かして行きたいと思います。機会があれば次回も参加してみたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 意識のスペクトルの図と「魂のアイデンティティ」の青年の状態、そして自分自身によく照らし合わせてわかりやすかったです。それに合わせた諸セラピーも記してあり、興味をもてました。ボディサイコセラピーで筋肉身体と心の状態や、読書会も大切と思いました。
- ・ 音読する機会をもてたことがうれしかった。みんなの意見が聞けたことがうれしかった。もう一度本を読みなおしてみたい。
- ・ 使われる語句、考え方、とにかく難しく感じると共に、一回聞いただけではそう簡単には理解できないことだと思いました。
自分の人生と照らし合わせながら、読み進めていくと少しずつ理解が深まり、新たな発見があるだろうと思いました。
私は現在大学生ですが、中学生などでも読みやすいような噛み砕いた表現の本もあれば、より若い頃に何らかの発見ができるかもしれないと思いました。
- ・ 読書会ではどんなふうに進んでいくのかワクワクドキドキしての参加でした。本で読んだことで疑問点、気になる点をそれぞれの人が出し合い、それぞれの人の思いを伝え合うことによって新たな自分に気づいたり、様々な考え方があることなどを知ることができて深まった一年でした。
恋愛小説やエッセイなどはスラスラ読めるのですが、「魂のアイデンティティ」のような本を一人で読むだけだと自分を深めることはできなかったと思います。みなさんと一緒に自分を深めることができてよかった。
西平先生の本を読み、作者と青年の関わりによって、時間の経過とともに諸セラピーと意識のスペクトルのレベルが変化していくのがとてもわかりやすく理解できました。
- ・ かつて、大衆的な講演会だけだったものが、今回のような「読書会」になり、参加した私も含めての「トランスパーソナル」への理解が深まってきたと思います。
又、現在実践している「コーチング」「カウンセリング」上の人間関係の深い「心の交流面」でも別の面から理論的にも強化してもらいました。ウィルバーの偉大さ、東洋思想（特に仏教）の深さ、広がり的重要性を再認識しました。ポスト資本主義の人類を支える哲学ではないか？